

遊べる広場と緑のオアシス

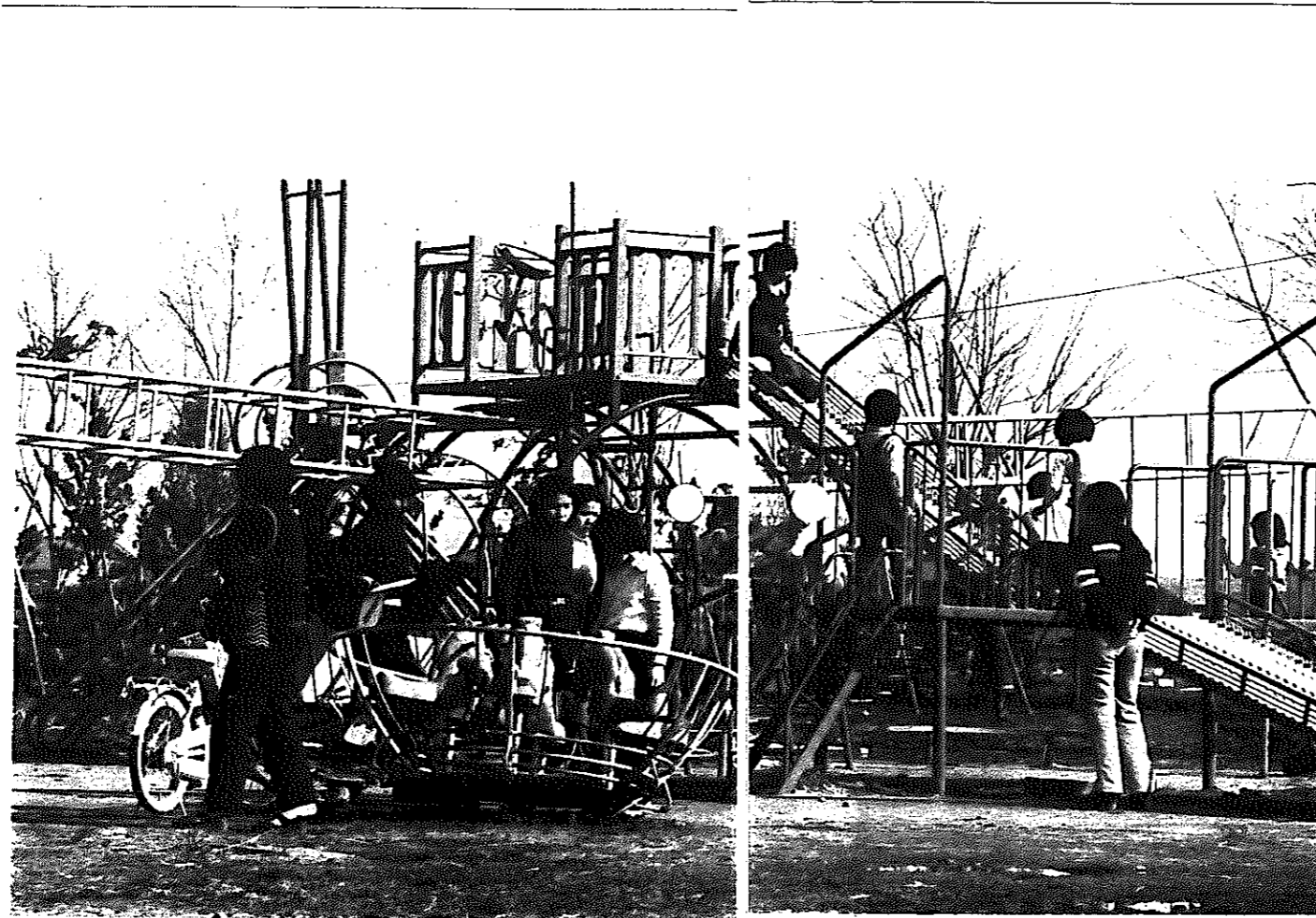
進む児童公園の整備

ごぞんじでしょうか、市が力を入れている事業を——『市長とはがきで話そう』の手紙にいつもあるのが子どもが安心して遊べる場所と緑のオアシスがほしいということです。

車の洪水で遊び場が少なくなった子どもたち、その悩みの解消と合わせ、住みたくなる生活都市づくりをめざして、取り組まれているのが、『公園づくり』です。

昭和50年3月にオープンした白根児童公園をはじめ、51年3月に諏訪木児童公園が、52年3月に四ツ興野児童公園が完成。子どもの天国としてにぎわっています。

今年は、第4号公園の東(あずま)公園が、うぶ声を上げられるよう急ピッチで作業が進められています。



▲公園誕生第1号——白根児童公園のお客さまは、チビっ子からお年寄りまで。青空の下でぞんぶん遊ぶ子どもたち

生活都市づくりめざして

『市総合計画』によると、河川にかこまれ、すばらしい田園をもつ、私たちの町の特色を生かし『緑と太陽と空間のめぐみを生かした都市づくり』を進めます。そのため市街地には児童公園、農村地域には農村公園を、集落圏には児童遊園の建設を行います。

そして、六十年には市民一人当たりの公園緑地面積を二平方

メートル五十年現在は〇・六四平方メートルとします。

また、整備計画によれば、六十年までに児童遊園二十七か所、児童公園九か所、農村公園九か所、運動公園一か所、庭園公園一か所になるよう取り組んでいきます。

公園はみんなの広場

現在ある公園や庭園、遊園地を紹介しましょう。

▽白根庭園(諏訪木堤防)

▽白根児童公園(市役所わき)

▽諏訪木児童公園(旧東亜造船跡)

▽四ツ興野児童公園のほかに七軒、庄瀬、朝捲、戸頭に児童遊園地があります。

公園はみんなの広場です。紙くずやあきカンなどの投げ捨てはやめ、マナーを守って楽しく遊びましょう。

親子づれでぜひ一度、遊んでみては——



公園でひろう

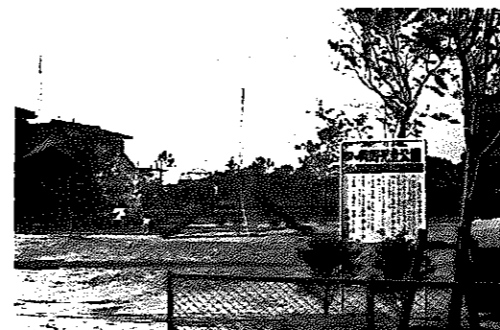
▶佐野直人君(日の出町) 土曜や日曜には、よくやってきました。水遊びができる池があったらネ。便所がきれいだとよいのですが。▶池田サトさん(桜町) 園児をつれて行きますが、大きい遊具をぞんぶん使って、伸び伸びと遊びますネ。▶田村三紀

子さん(能登) 紙くず、あきカンなどが投げ捨てられてありますが、くずかごがあるんですから、その中に入れるように、お互いにマナーを守りたいものです。▶鈴木義博君(四ツ興野) よく遊びにくるけど——ジャングルや鉄棒があったらナー。▶

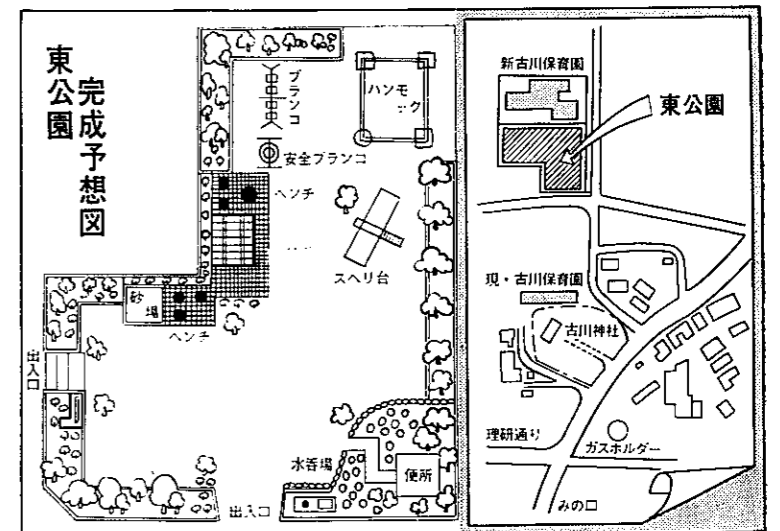
水間信博君(中央通り) 車がこないだろう、ぼくの好きな野球ができてうれしいヨ。▶主婦(投書から) 樹木が大きく育った時こそ、すばらしい公園と楽しみ。その間、ベンチが2~3こはいる屋根がある日陰場所がほしいです。工夫したら——



▲第2号公園——諏訪木児童公園



▲第3号公園——四ツ興野児童公園



▲第4号公園として誕生する『東公園』。面積は1,800平方メートルで工費は1,300万円。児童、幼児が伸び伸びと遊べる、市民いこの場になるよう工夫されています。